

「できること」で、サポートを！

「お時間があるときに」「5分でも」子どもたちの様子等を見ていただきたい。
そのうえで、ご意見やご提言をいただきたい。という話を13日（土）にしました。
早速、「今までだったら、それは学校だけで、できよったが・・・？」というご指摘
もいただいています。

この『今までだったら』が、時代の流れ（グローバル化・技術革新等）や社会の変化
(少子高齢化・働き方改革・価値の多様化等)の影響で通用しにくくなっています。

少しずつでも、皆さん（職員含む）の「できること」を活かした「地域の中の学校（コ
ミュニティ・スクール）」づくりの一歩を踏み出したいと考えています。

【朝の時間に（読み聞かせ）】



実際、現在の学校では

家庭科（裁縫・ミシン）授業での児童への個別支援
体育・図工科等の授業の児童見守り（教える必要なし）
昼休みや清掃、村内巡回学習等の児童見守り
椎葉の今・昔、文化を語る
自らの仕事・人生観を語る（現在6年生で実施中！）
といった方々を必要としています。
「ちょっと来てみたっちやけど・・・」のひと言から
始めてみませんか？

学校でないとこうでも…

「通学バスの中が、さわがしい。」「放課後子ども教室での学習に集中していない。」
記録を見ると、昨年度とほぼ同様の時期に同じようなことが起こっています。

コロナ禍もひと段落、子どもたちは、通学・学校・放課後という一連の生活に「慣れ」を
覚え、その「慣れ」が「ゆるみ」を生み、不適切な言葉や行動につながっているようです。
「ビシッ！」と叱るのも手立て、「どう過ごしたらいいか？」じっくり時間をかけて考えさ
せるのも手立て。

「学校での指導が、学校でないとこうでも生きる」、児童自らが適切な言動ができるよう、
しつこく声をかけているところです。

ご家庭でも「バスの中はどうやって過ごすと？」「放課後子ども教室は、遊ぶところか
ね？」といった言葉かけをよろしくお願ひします。

校長のつぶやき

網戸にしておけば、天然の涼しい風が流れ込む住宅。
泥棒さんは困りますが、2匹程度の蚊の侵入は計算のうちで、
「今年もクーラーなしでいけそうだな」と、勝手にやせ我慢
を決め込んでいる2年目の夏です。
(誤解のないように言っておくと、「扇風機」はあります。
これが「風呂上がり」は、汗まみれです・・・。)

